vol. 2239
【発　行】大分県高等学校教職員組合教宣部　大分市大字下郡496-38　大分県教育会館
TEL／(097) 556-2838　FAX／(097) 556-8998　MAIL／ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野　真二　【印　刷】佐伯印刷（株）　【売　価】30円（組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています）

学校にも働き方改革の風を

今号の掲載内容（掲載順）

●日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！
－大分高教組　第68次県教研開催

日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！

大分高教組　第68次県教研開催

と　き：11月８日（日）　ところ：大分県教育会館

高教組　第68次教研集会開催にあたって

コロナウイルス感染対策として、今年度は県教組と合同の全体集会を取りやめ、分科会のみの開催としました。また会場も予定していた大分雄城台高校から教育会館に変更し、また11月８日（日）の１日のみの開催としました。コロナ対策として、他県では、今年度の教研集会を中止した単組もある中、何とか教研集会を維持したいと、規模を縮小しての開催としました。

開会行事がなくいきなりの分科会スタートでしたので、参加された皆さんにご挨拶ができませんでしたが、今年も多くのリポートが提出されました。リポーターや、運営を担当された分会教文部委員や支部単組教文部長委員の皆さん、そして本日の一般参加者の皆さんに感謝申し上げます。今回の教研でリポートされ議論された教育実践は、必ず組合員の日々の実践の糧となることを信じています。

大分県高等学校教職員組合　執行委員長　大野　真二

教科・問題別分科会

第２分科会　外国語教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	「対話的で深い学び」を支えるもの ～音読を通して考えてみた～	木村　辰郎	日田三隈
2	ドキュメンタリー番組「Regular Heroes」を活用した英語の授業～農業高校生と考えるコロナウイルス禍における農業の価値～	高橋　憲一	久住高原農業

英語教育の見つめ直しと今後

後藤　昌幸（大分雄城台）

リポーター２名、司会者１名、一般参加３名の計６名で行いました。まず昨年度の全国教研還流報告を木村辰郎さん（日田三隈分会）からしていただきました。全国的に小学校で英語が教科化され、専科教員配置の課題、英語を使うことの必然性をいかに児童に感じさせられ得るかをテーマにした実践についての情報交換が、やはり多かったとのことでした。英語の知識獲得に対して単なる技能と受け止められる雰囲気があったとのことでしたが、培った技能を用い、人権・平和・共生・環境などの課題に対して自分の意見を英語で表現するためにも、不可避な要素であろうと思われました。

木村さんのリポートを通して、日頃授業で行っている音読活動や、“Repeat after me”と言っている単語のリピーティングなど、効果の点で今一度教員が見つめ直す必要があるのではないかとの議論がありました。また高橋憲一さん（久住高原農業分会）からのリポートを通して、Google翻訳機能を使って英語で表現できる現在の若者たちが存在し、そして今後AIがさらに発展することが必定の将来、その機能を私たち英語教員が無視して従前の英語指導を行って良いものかどうか、今後の英語教育に一石を投じた内容でした。

参加者は若年層始め、中堅、ベテランの方とバランス良く、情報交換、アドバイスも飛び交い、半日ではもったいなかった感もあった内容でした。

＜参加者の感想＞

・年に１度の教研ですが、同じ教科を教えているという共通の点を持つ仲間が、ざっくばらんに話し合えるのは幸せなことです。大切にしたいですね。

・普段気になっていたことの解決のヒントが分かって良かったです。

第３分科会　社会科教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	「歴史総合」を見据えた世界史授業実践 －「綿糸とアジア間貿易」教材化の試み－	西　裕一郎	大分豊府

「歴史総合」を見据えた授業実践

佐藤　倫洋（大分西分会）

今年度はリポート１本、参加者５名と少ないながら、アットホームな雰囲気の中、内容の濃い討議ができました。

大分豊府分会の西裕一郎先生が、『「歴史総合」を見据えた世界史授業実践―「綿糸とアジア間貿易」教材化の試み－』と題して発表して下さいました。地歴公民科は令和４年度から科目が大幅に変更になります。それを見据えた授業実践でした。新課程の大きな柱となるであろうグローバルヒストリーについて、『最初から素粒子が存在する「場」やそこに働く「力」を問題にする』という概念で授業を構成されていました。参加者は、「アジア間貿易」を世界史担当、日本史担当それぞれの立場から思考を深化させることができました。議論した内容はもちろんですが、議論することの楽しさを実感できました。また、新課題への取り組み状況についての情報交換もできた有意義な時間でした。

来年度は「歴史総合」「地理総合」という未知の科目に対する実践についての討論をさらにできたら良いと思います。

＜参加者の感想＞

・新課程について、自分の専門領域を広げる必要性を改めて感じました。

・総合・探求科目の面白さを知ると同時に、実際に授業をするのが大変そうだと思いました。しっかり勉強します。

第４分科会　数学教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	三角比学習で生徒の困りの底にあるものは	沼田　庄司	中津東
2	数学の基礎	久保田　猛	中津東定時制
3	九数教の公開授業の思い出	松本　幸夫	大分商業

日頃の教育実践からのいろんな気づきが沢山！

沼田　庄司（中津東分会）

９名の参加がありました。中津東定時制分会の久保田猛さん、大分商業分会の松本幸夫さんと私の３本のレポートをもとに討議をすすめました。それぞれ実践や経験をもとにした報告で、質疑や意見交換も盛り上がりました。

普段の教育実践のなかで、ちょっとひっかかっていることや、生徒の助けとなるような小さな工夫を出し合い、話し合う貴重な時間となりました。教える側にとっての振り返りや工夫改善の交流の大切さを感じました。数学的な概念や考え方が生徒にストンと落ちるように、表現や提示のしかたを細かく考えることの積み重ねを皆さんがされていて、その日常的な実践の話は気づかされることが多かったです。

今年は工業科の佐藤さん（宇佐産業科学分会）が参加されて、数学ズレのない観点でお話をいただき、とても良い刺激

となりました。これまで未参加の数学科の組合員の方や、数学教育に関心のある関連教科の方は、来年気軽に参加を考えてみませんか？

＜参加者の感想＞
・常に生徒の困り、つまずきを解決しようと努力する姿勢に、教員として原点に戻る思いでした。
・58歳だが、まだまだ知らないこと、学ぶべきことがあった。参加して良かった。

第５分科会　理科教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	熱の可視化～コロナ禍の中で～	堀田　秀俊	安心院
2	授業改善の取り組みについて	藪亀　尋子	宇佐
3	ICT機器とユニバーサルデザイン	小野　紀昭	由布

ICTを活用した理科教育

相良　宣雄（佐伯鶴城分会）

今年度の理科教育分科会で発表されたリポートは３本でした。１本目は由布分会の小野紀昭先生が「ICT機器とユニバーサルデザイン」と題して発表してくださいました。ICT機器の利用を推進している中で、従来の板書だけでなく、スクリーン画面や授業プリント、さらには教員の発言まで、生徒に与えられる情報量が増大しています。様々な特性を持つ生徒がいることを考慮して、授業を進める際の工夫を紹介してくださいました。授業プリントの表現を教科書と同じにしたり、スクリーン画面をプリントと同じにして解答を記入したりと、情報を整理して提示するようにしていました。２本目、３本目はリポートのみの発表で、宇佐分会の藪亀尋子先生より「授業改善の取り組みについて」、安心院分会の堀田秀俊先生より「熱の可視化～コロナ禍の中で～」といったテーマでした。それぞれICT機器等を活用して、目に見えない現象や観測しづらい現象を可視化し、わかりやすく伝える工夫をされていました。参加者が３名と少ない人数ではありましたが、有意義な時間となりました。

＜参加者の感想＞
・参加者が少なくて寂しかった。もっと参加者を！

第６分科会　芸術教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	音のデザインを理解しよう	稲田　雅史	別府鶴見丘

芸術教育

阿部　世志子（由布支援分会）

運営委員を含め４名の参加者で芸術教育分科会は行われました。前半は別府鶴見丘分会の稲田先生のリポートをもとに討議をしました。音楽や曲に対する評価について様々な検証をしました。同じ曲でも音楽の専門的な知識がある人とない人でイメージや印象が変わることを踏まえた上で、映像に音楽をつけるという授業でした。曲の様子を、感情を表現するさまざまな言葉で細かく分析していき、生徒たちが新たな発見をして達成感につながっているという内容でした。音楽に対して客観的な評価ができ、生活に音楽が根付いていく様子が分かりました。後半は、①個々に応じた授業実践をどう行うか、②芸術家の抱える課題について、③障害児学校における芸術活動の関わり方、を柱として討議をしました。生徒の人数に応じて個への対応も変わってくること、単位数や教諭の人員確保、どの学校でも生徒の実態どりの大切さ、特別支援学校に芸術の先生が不足しており指導が難しいといった点が話題となりました。さまざまな角度から議論ができ、有意義な会となりました。

＜参加者の感想＞

・内容の濃い話ができたと思います。少人数での授業や特別支援学校の芸術科教員の配置など、これから改善していかなければならない課題の話が出て、共有することができました。
・４人での分科会でしたので、いろんな話がたくさんできて良い時間でした。芸術の話をゆったりと深く語れたので、満足しています。

第10分科会　職業教育
第24分科会　総合学習

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	「本校における『STEAM教育』への挑戦」	佐藤新太郎	宇佐産業科学
2	SDGs研究	高田　裕介	別府鶴見丘

職業教育、総合学習　　石田　義徳（佐伯豊南分会）

全国教研に、司会者としても参加した佐藤新太郎さんが、３本のレポートを発表した報告がされました。内容はいずれも「STEAM教育」に関するものでした。地域貢献活動の一つとして、特別支援学校と共同して作った町家具ベンチの取り組み等が発表されました。また、レポート発表では、同じく宇佐産業科学の佐藤さんより「STEAM教育への挑戦」が発表されました。フェイスシールドの制作や、無接点式消毒液の自動ポンプシステムの制作により、STEAMの推進についての発表がなされました。

また、別府鶴見丘高校からは高田さんによる「SDGs」の研究レポートが報告されました。２学年で世界的な視点で考えるグローバル探求プロジェクトに取り組んでおり、ただの調べ学習に終わらず自ら独自の改善策を考えるまでの取り組みが報告されました。

総括討論では、教科間のリンクなど学校全体での生徒の育て方について議論がなされました。

＜参加者の感想＞
・コロナで会は小さくなりましたが、消すことなく今年も継続できて良かったと思います。
・STEAM教育推進のため、人を多く配置してください。

第11分科会　自治的諸活動と生活指導

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	主体性を育むことを少しだけ意識した学年運営 ～進学指導という現実の中での模索～	賀来　宏基	別府鶴見丘
2	本校の教育相談活動	柿内　隆志	海洋科学

自治的諸活動と生活指導
嶋田　寿之（玖珠美山分会）

毎日、通勤と授業準備と各種報告で、自分のことで精一杯な状況の中で、県下各地から自分の実践を持ち寄り、意見を交流できるという、とてもいい経験をさせてもらいました。

１本目は別府鶴見丘分会の賀来先生からの報告でした。自校での進学指導の中で、子どもたちの自主性を育む実践です。「修学旅行も０から考えていくこと」ということばをきっかけに様々な分野で子どもたちの変容を待つ姿勢に感銘を受けました。なかなか待っていられないのが我々ですから。現場で楽しそうに、そしてエネルギッシュに、子どもの自主性を育てようとする姿が伝わってきました。２本目は海洋科学分会の柿内先生から。コロナ禍の中で、家庭の子どもたちを孤立化させないよう、SCと連携した、また全職員を巻き込んだ保健健康調査票の取り組み報告です。県下唯一の学校で、子どもたちに身を寄せながら、健やかな成長を願う気持ちにあふれていました。

年に一度ですが、子どもたちのことについて話をするっていいですね。普段、話し合う時間も余裕もないのが現実ですから。

＜参加者の感想＞
・他校の実践が分かって良かった。また、分会で活動をしていくことの活力を得た。来年もまた参加したい。分会で新しい人を呼んで、教研に参加できたらと思っている！
・数年ぶりに教研に来ました。年齢関係なくおかしいことは「おかしい」「そこは違うと思う」と言い合える高教組は、やはりいいなと思いました。

第１３分科会　人権教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	保健室のことば	永野　智久	宇佐
2	地域に拓く～宇佐支援学校の挑戦～	糸永　伸哉	宇佐支援
3	仲間づくりの実践（人間関係づくりプログラムについて）	髙橋　貴子	別府翔青
4	俺は何もないゼロじゃないんやな、先生！	時枝　武敏	由布
5	部落問題学習「水平社宣言から学ぶ」の授業をつくる	時枝　武敏	由布
6	Mから学んだこと	時枝　武敏	由布
7	ペナルティー教育について考える	時枝　武敏	由布
8	多様な生徒への人権教育 ～不登校生徒の対応の記録～	安部　祥子	玖珠美山

ワクワク興味深い実践のレポート

佐藤　立也（日出総合分会）

８本のレポートは、組合員のみならず、教育に携わる人には是非知ってもらいたいものばかりでした。４本のレポートを提出しての参加の時枝さん（由布分会）は、危機感を感じるたびにレポートを書いていたらこの本数にと。教育とは？生徒と共に悩みながら関わる中での学び、部落問題学習を通しての教育の創造、子どもの思いを丁寧に聞き取ることなど、立ち止まって考える必要性について提起をいただきました。髙橋さん（別府翔青分会）からは、来年度は全小中高に入るという人間関係プログラムについての実践報告。定期的に時間を設定し、ペアワークを通して自己肯定感の育成につなげていく仲間づくりプログラム（名付けて、笑晴（しょうせい）タイム・show say time）では実践の有用性が確認でき、実施のための大切な視点や、資料や参考となるポイントが多数示されました。糸永さん（宇佐支援分会）からは、生徒のアート作品制作を通して学校を地域に拓きつなげ、地域を巻き込んだ活性化につながる可能性が大きくなりそうなワクワクする取り組み報告でした。このスペースでは内容を全く伝えられません。それぞれのレポートを是非入手して、読んでみてください！

＜参加者の感想＞

・教育の核になるものが何かを考える機会を与えられた感じがありました。日々の業務に追われると見失ってしまう部分であり、改めて忘れてはいけないな、と思いました。

・自分の生徒への対応について不安を感じることがあったのですが、他の先生方の話を聞くことで、自分の考えをもって生徒と向き合っていくことに自信がつきました。「仲間作りの実践」のリポートは、HRでも参考にしてみたいです。

第１４分科会　障害児教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	病弱教育の現場で感じたこと	池端　恵子	別府支援
2	知的障がいの支援学校における「特別の教科　道徳」の授業実践　～なにを、どんなふうに教える？～	阿部　佳子	南石垣支援
3	校務支援システムの導入について　～担当者からの報告～	萩原健太郎	南石垣支援
4	高等学校における「通級による指導」の取り組み	土谷　充章	爽風館定時制
5	もう学校におけるオンライン学習のとりくみ　～コロナ禍の先をみすえて～	末永多香光	もう
6	学習支援機器の活用について　～気持ちよく学習に取り組めるために～	堀田　文雄	新生支援
7	障害児学校における緊急時対応について　～４年間の様々なケースの訓練から見えてきたこと～	金谷　雅美	日田支援

障害児教育

池端　恵子（別府支援分会）

第14分科会「障害児教育」では、６本のリポート発表がありました。参加者は、運営委員４名を含めて、17名でした。本分科会の討議の柱は、①障害児教育における教育条件の改善について、②教育内容をいかに創造するか、③働きやすい環境作り、④インクルーシブな教育をめざすには、の４つでした。６本のリポートのテーマは、「通級による指導のとりくみ」「病弱教育の現状」「特別の教科　道徳の授業実践」「学習支援機器の活用」「校務支援システムの導入」で、それぞれの学校の特色を踏まえた内容が発表され、参加者全員がその内容に熱心に耳を傾けていました。討議の時間が充分に取れなかった部分はありましたが、各発表に対しての質問や意見交換を通して、大切な情報交換の場となりました。今後の授業や教

育活動に活かせる内容が多く、充実した分科会となりました。

＜参加者の感想＞

・日々の格闘、葛藤、苦しみがよく伝わりました。一言ひとことかみしめながら話す様子に、さまざまな思いが込められていました。私も担当生徒のことで日々悩んでいるので、思いが重なる部分がありました。

・すべての子どもに教育の機会均等を、とは思いますが、教育どころではない子どもについて，考えさせられました。

第１６分科会　両性の自立と平等をめざす教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	由布高校　女子のズボン推進の取り組み	時枝　武敏	由　　布

両性の自立と平等をめざす教育

財前　博子（ろう分会）

第16分科会「両性の自立と平等をめざす教育」では、三密を避けながら、参加者13名で行われました。最初に参加者全員の自己紹介で始まり、なごやかの雰囲気の中、由布分会の時枝武敏さんによる「女子ズボン推進の取り組み」が発表されました。

由布高校校長の「女子が男子の制服を着るのはいいんかな。」から始まった女子ズボン推進の取り組みは、時枝さんの「子どもたちがそれぞれ自分が着たいものを着ることが一番良いのでは」という思いを元に根気強く推し進められたものでした。

発表後、多くの質問や意見が出され、その中で「ジェンダー平等を実現しよう」という観点からも制服の多様化は必要であることが挙げられました。参加者一人ひとりが職場で感じているジェンダーフリーを阻む要因や具体例などを挙げ、活発な意見交換が行われました。最後に運営委員から「自分らしく生きるためにどうすればいいか考えるきっかけの一つに制服がなれば良いと思う。」と述べられ、第16分科会は閉じられました。

＜参加者の感想＞

・「制服をとおして、生徒に学ぶきっかけを与える」という意見が大変心に残りました。また、リポーターの「学ぶことをやめない意識」がすばらしいです。一教員として、学び続けることを再認識することができました。

・「制服」が教材になる、と発見できました。職員室ではよく話し合うけれど、そういえば生徒と考えたことはなかったな、と立ち止まれました。明日また職員室で話題として、その後生徒とも話し合いたいです。

第１８分科会　平和教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	「糸口山の奇跡～小倉陸軍造兵廠　糸口山製造所の跡を求めて～」 宇佐支援学校高等部平和学習の記録	糸永　伸哉	宇佐支援
2	沖縄平和学習の旅還流報告	杉山　賢輔 緒方　里美 中尾翔太郎	玖珠美山 別府鶴見丘 情報科学

「指導案をなぞるだけの授業をしていませんか」

牧　　貴史（別府翔青分会）

はじめに長崎の高校生から始まった高校生一万人署名活動について報告があり、工業高校ではあたり前に行われている職員室の入室のルールについて、全国教研では驚きの反応が多くあったことについて話がありました。次に青年部からのレポート発表では、「自分が知ろうとしなかったら、子どもたちは教員が本気かどうか簡単に見透かす。深く自戒させられた。」「現地に行かなければ伝えらなれない思いを、生徒に還元したい。」など発表がありました。最後に、住んでいる地域を教材にした発表では、「障害のある子どもたちに、これぐらいでやったらいいだろう、の平和教育は嫌だったので」との前置きがあり、当時の写真や映像を用いて、授業を体験しました。発表参加者にはレポーターの熱がエネルギーとして伝わり、学校での実践につながるお土産をもらったと思います。

＜参加者の感想＞

・「戦場に送るな！」のスローガンは、組合を象徴するものとして柱となるもので、青年部の参加が何よりも心強く感じました。レポート本数は２本のみでしたが、時間が足りないとも思いました。

・工業高校で当たり前に行われている職員室への入退室のあり方も、視点が変わるととらえ方も変わることにハッとさせられました。また、日常の中に多くの課題があり、それを使うことでこんなにも響く授業になるのだと感動しました。自分は言い訳ばかりで行動に移せていないので、一歩踏み出したいと思えました。

第19分科会　情報化社会と教育・文化活動

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	≪カットイメージ・リーディング≫を利用した読書感想文指導	阿野　卓也	中　津　東
2	オンライン会議アプリ（ZOOM）を使用した読書活動の新しい形（主にビブリオバトルの実践）	深蔵　剛	安　心　院
3	理想の学校図書館をつくる　学校図書館蔵書充実に向けての課題	畫間　まみ	杵　築
4	仕事の諸問題解決のために	小野　陽子	日出総合
5	SDGsと図書館を中心に据えた学校に	時枝　武敏	由　布

情報化社会と教育・文化活動

日野　沙織（中津南分会）

本分科会は、リポーター、運営委員を含む参加者20名で定刻どおりスタートしました。参加者の多くは学校司書で、お互い顔見知りのため全体的には和やかな会でしたが、発表、そしてその後の質疑では活発な議論が交わされる場面もありました。

情報化社会の進展を見据えた学校図書館の運用、読書活動の推進をテーマにした発表では、オンラインアプリZOOMを活用したビブリオバトルの実践や、e-officeシステムの会議打ち合わせスペースを活用した学校図書館の情報共有の運用など、現実社会に即した先進的な研究事例が紹介されました。

一方で、少数職種である学校司書ならではの悩みや図書館をめぐる諸課題について、解決を探る研究事例も発表されました。

コロナ禍の中、学校現場をめぐる状況は刻々と変化し、対応を迫られるでしょう。しかし、図書館が子どもたちの学びの発信の場になるためには、学校全体でもう一度考えていく必要があるのではないかと深く考えさせられました。

＜参加者の感想＞

・校内に図書館を、司書を理解してくれる人がいることが、どれほど大きなことかが感じられました。

・臨時司書として、本当に前任の方々の仕事というのが今の自分に影響を及ぼします。今年度、その辛さを実感しました。次の方のためにも、未来の司書の方のためにも、丁寧に仕事をし、声を上げていかなければと思いました。

第２５分科会　定時制・通信制・分校の教育

	リポートタイトル	リポーター名	分会名
1	定時制のこころ	横山新太郎	爽風館定時制
2	日田定とともに歩む	日田定分会	日田定時制

定通教師のあるべき姿って何やろう？

奥貞　知宏（大分工業定時制分会）

レポーター・運営委員を含めて４人の分科会で、全員が定通教師ということもあって、それぞれの学校の状況を交えながらの討議となりました。１本目は日田定の福田晃一郎さんで、定時制通信制高校の生活体験発表大会で生徒が発表した内容を振り返りながら、定時制通信制高校に通う生徒の家庭環境や生活実態、集う生徒の思いを報告しました。日田定の取り組みや勇気を振り絞って発表してくれた生徒たちの成長をみんなで確かめ合いました。２本目は爽風館定の横山新太郎さんで、これまで勤務した定時制や支援学校で出会った先輩教師から学んできたことを紹介しながら、今感じること、思うことを報告しました。定時制通信制に務める教師のあるべき姿って何やろうって考えさせてくれた２本のレポートでした。全日化した指導ではなくて、目の前にいる生徒との「対話」を大切にしたごく基本的な教師の姿が重要なんだということを確認しました。

＜参加者の感想＞

・コロナの中、しかし開催できて本当に良かったです。とても貴重な時間でした。
・定通分校に限らず、すべての教育に通じる話でした。教研大切！

他にも、第１分科会「日本語教育」に福田晃一郎さん（日田定時制分会）の「書こう！文章修業（その12)」、第８分科会「家庭科教育」に吉田美恵さん（日田三隈分会）の「みんなでENJOYかていか！」のリポートが提出されました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から規模を縮小して開催しましたが、県下より約120名の参加者が集い、実践を学び、議論を交わすことができました。

皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。

来年度は、盛大に開催できると良いですね。